
魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

のりにゃんこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは

転生者による原作破壊の物語

【コード】

N7900Y

【作者名】

のりちゃん

【あらすじ】

ある日神様のミスで死んでしまった事もなく偶然転生させられる事になる少年少女たち。 彼等は少しでも良い未来を創ろうと奮闘する。

E P O O 　　プロローグ

俺は真つ暗闇の中で目が覚めた。

上も下も、前も後ろも、右も左も分からない、暖かく、心地の良い
“闇”

そういえば死んだんだっけ。

そんな事を考えていると、不意に声をかけられた。

「おめでと〜！君はこの度、見事転生者に選ばれました〜！」

は？なに？このコードギアスのロイドさんっぽい声でロイドさんっぽい話し方するメガネは。

「なんで俺？つーか死んで漸く心地の良い場所に來れたのに。」

全くだ。末期の癌とか言われて一年苦しんだんだぜ？

っていうか、余命半年とか言われたっけ。今思うとすげえな。しかし享年十九歳か。我ながらびっくりだ。

まあ今更どうでもいいが。

「ふむ。君の疑問も尤もだ。簡単に言うと、十九歳までに死んじゃったで“魔法少女リリカルなのはシリーズ”について一定以上の知識が執念を持った人間を選び出し、その中から気に入らない奴を候補から外し、最終的に残った人間の内の一人が君だ。」

あ、真面目な口調になった。

「では特典を三つ与えるってことだから。ああ、ちなみに拒否権は無いから。」

えー無いの。まあしょうがないか。

「じゃあ、“ジェイル・スカリエッティ”のフィッシュ数乗の頭脳をくれ。」

「はいっ。」

「いいの？流石に無理だと思ったのに！」

「まあそんならいなら。というか君、無理だと思ってるのに言うんだね。まあ、僕らそれ＋5位はあるから。まあ中には馬鹿もいるけど。」

そうなのか。意外にすごいなメガネ。

「あと二つだよ。」

急かすな。まじで。

「じゃあ、レアスキルメイカーがいい。」

「ああ、レアスキルが作れる奴だね。まあ、妥当かな。了解。」
あと一つか。そうだな。

「何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍。できるか？」

「もちろんさ。まあ、そんな回りくどい能力を頼んできたのは君が始めてだが」

そうなの。割と便利なのに。

あ、そういえば。

「俺が入る体つてのは産まれてくる赤ん坊なのか？というか新しく作られるのか？」

これが気になってたんだよな。二次創作じゃあよくあるけどどうなつてんのかわからなかったし。

「特典に酷似した能力を一つ以上持った人間に入れるよ。まあそれで実現できない奴は新しく作るが。あと足りない特典は与えるから」

成る程。ん？

「実現できない奴つてのは？」
メガネは答えた。

「二次創作にたまにいるだろ？銀髪オッドアイとかさ。あと原作キヤラの親族とか。流石にそういうものは落ちて（存在して）無いから。」

ああなる。

「神様つて大変なんだね。」

一応労っておく

「ありがとう。ぬぎらいの言葉をかけてくれたのは君だけだよ。」

ああ、かわいいそうに。

「よし、じゃあ記念に超ハイスペックな体にいれてあげるよ。」

はい？

「じゃあいくよ！キエエエエエエエエ！」

「掛け声かっこ悪！」

馬鹿な事言ってたら下に落ちていく感覚がして、

俺は意識を失った。

EP00 〱プロローグ〱（後書き）

グダグダな気がします。が、作者は初投稿なので大目に見てください。

EP01 へ古代ペルカの王的なものになりました(前書き)

書き換えました

EP01 古代ベルカの王的なものになりました

なんか暖かい液体の中にいる感覚がする。

ああ、転生させられたんだっけ。

あれ？

SIDE 科学者

漸く長年の研究の成果が出る。

古代ベルカに存在したという二人の王

聖王と霸王

最近の研究で明らかになった“騎士王”と呼ばれる、彼等と同時期に生き、共に戦ったとされる第三の王。

その三人の遺伝子情報をもとに人造魔導師を創る計画。

プロジェクト EMPEROR

今日はその完成体を稼働させる日だ。

おや？もう時間か。さて、完成度はどの程度か記録せねば。

S I D E O U T

S I D E 名前はまだ無い転生者

ごぼっ という音と共に周りの水がぬけていく。

まだ目はあかない。

「おお！これが完成体か！」

ん？なんか色々声が聞こえるな。
ちよつと耳を傾けてみるか。

「はい。まだ溶液を抜いたばかりなので目はあきませんが。」

若そうな声だな。

「で、身体スペックの方はどうなっている？」

じじいみたいな声だ。

「はい。魔力値の方はAAA+S-って所ですね。あと筋力などですが、今の状態でストライクアーツの達人級かその少し下くらいでしょうか。知能に関してはまだ分かりません。」

「ふむ、そうか。色々な薬品を投与して耐性を調べて見ようと思うから第二研究室まで運んでくれ。」

ちよつと待てじじい！俺を殺す気か！
次の瞬間、俺の意識は赤く染まった。

S I D E O U T

S I D E 研究者 B

「な……………リンカーコアが暴走状態に？いや、違う！これは……………」
いきなり実験体に異常が発生した。

「な……………何が起こつておる？完成体の体が赤く光出したぞ？」

リンカーコアに暴走に近い症状があらわれた。

そして

「広域殲滅魔法発動。“ワルプルギス・ナハト” 並行詠唱“デアボリック・エミツション” 広域殲滅誘発魔法“フェアツヴァイフルング”発動」

まるで、機械のような感情の無い声が聞こえた。

実験体の両手に白い光と黒き闇が顕現する。
そして二つの魔力が干渉しあい、

灰色の“絶望”が全てを染めた。

SIDE OUT

SIDE 転生者

「死ぬかと思った。っつーかなんで生きてんの俺？」

「ああ、それは君のレアスキルが発動して広域殲滅魔法を放ったからさ。」

メガネの声が出た。神様だもんね！驚いたら負けだよな！

「いや、でも俺デバイス持ってないんだけど？デバイス無しじゃ魔法使えないんでしょ？」

「君は面白い事を言うね。その手に持っている魔導書がデバイスだよ。ああ、名前は覇天の魔導書”アーサー”だ。大事に使ってくれたまえ。あと研究者達は生きてるから殺人はしてないよ。しかし記憶を消した上でランダム転移はしたようだけど。」

え、何それ怖い。

まあ同情はしないが。

ああ、それより聞きたい事があったな。

「何で人造魔導師に入れられたのか納得できる説明を求む。」

「ハイスペックな体で検索して一番性能が良くて、一番容姿が普通な体を選んだらそうなった。」

「一応聞いておこう。他はどんな容姿だったの？」

「肌の色が青とか、トカゲ男みたいなばかりだったけど」

神様ありがとう！人間（スペックは化け物レベル）になれて良かったよ！トカゲとか苦手だったから！

所でココ、どこ？

EP01 〱 古代ベルカの王的なものになりました〱 (後書き)

なんか本当にグダグダですごめんなさい。

感想等寄せて頂けると嬉しいです。

それでは次回 原作っていつだっけ？

をお楽しみに！

EP03 原作っていつだったけ？

「神様〜ここどこ〜？」

気になったので聞いてみる。

「ん？えーと…………… あった。第135管理不可世界 通称 竜王の庭園だね。旧暦の462年に発生した次元断層の影響の調査中に発見された世界で、地質調査用次元航行船フューチャーがこの世界の物質を積んで飛び立とうとした時に巨大な竜の火炎弾で撃墜されてから管理不可世界とされているね。なにも持って帰ろうとしなければ何もされなかったそうだが。ちなみに今は新暦の62年だよ。あと余談だがこの竜は生体ロストロギア 竜王 とされているね。」

何それ怖い。

「あー、竜王の他には何が住んでんの？」

「ふむ。竜種が6000種類、魚類が9000種類、鳥類が6000種類、爬虫類、両生類が9000種類、哺乳類は400種類ほどで人間はいない。文明レベルなし。大きさは地球の30倍。平均気温26度つて所かな。あと重力が地球やミッドチルダの120倍だね。さつき君がいた所ではミッドと同じくらいになってたけど。あと研究者達は全員この世界には居なくなつたようだね。居住区は残っているみたいだから住む所には困らないね。あとはドックは残っているからデバイスとかも作れるよ」

「なんと言うご都合主義……………」

どんなだ。まじで。

「えーと……重力変動装置は残っていないみたいだ。その身体は君の特典で効率が100倍になっているようだからもう大丈夫みたいだね。」

うわー何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍すげー。

「あと言い忘れてたけど特典には一部デメリットが付くんだよね。」

「はあ？なんですか？」

いきなりだったので驚いてしまった。

「ごめんね。忘れてた。あ、寿命縮めるとかは無いから安心していいよ。」

まあ確かに、何のデメリットも無くできるわけ無いよね。

「じゃあ俺にはどんなデメリットがあるんだ？」

「君の場合は、効率が百倍は食事量百倍、頭脳は普段は記憶力以外は二倍までに抑えられる、レアスキルメイカーは言ったと思うけど作ったら魔力枯渇。この三つだね。」

うわー 制限されても普通だー 食事量百倍以外は。

いや、待てよ？頑張って通常の百倍腹が膨れるアイテムを作ればいいのではないだろうか。

よし、そうしよう。食費の為に。

まあしかし

「それ程酷いデメリットじゃなくてよかった。」

うん、本当に良かった。

「確かにね。因みに魔力EXとかだとリンカーコアが覚醒するまで極度の運動音痴になったりするよ。あと銀髪とかだと下手したらアルビノになっちゃうね。まあせつかくだから命に別状がないようにはしたが」

うん。色素が限りなく少なくなるって事だもんね。ってか今おかしな事言わなかったか？

「もしかして、それ頼んだ人いたの？」

「うん。いたよ。デメリットは聞かなくていいぜって言うてたから言っただけだった」

そのあと思いつきり愚痴られた。精神的に死ぬかと思った。

神様の話ではそいつはもうデバイス持って魔法使えるようになってるし銀髪も家系にしたそうさ。

魔力値EXとか相手にしたくない

よし、極力原作に関わらないよう努力しよう。

EP03 原作っていつだっけ？（後書き）

転生者「ねえ。名前はいつ出てくるの？」

作者 「んー 次くらいじゃね？あとDQNネームにすると
思っから。」

転生者「うわー よりによって厨二な名前になると言っのか。」

神様 「あと海鳴の家についてはそのうち俺が用意するから」

転生者「結局介入する事になるのかorz」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7900y/>

魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

2011年12月5日00時52分発行